地域資源に対する住民意識の分析に関する研究

秋田大学　学生会員　○降簱　元樹
秋田大学大学院　正会員　鈴木　雄
秋田大学大学院　正会員　日野　智
秋田大学大学院　正会員　木村　一裕

1. はじめに

近年、景観への取り組みは数多く存在し、まちづくりにおいて景観は重視すべき要件といえる。しかしながら、地域特有の景観を形成しうる地域資源に関しては、小さく身近なものまでに景観法などの法的効力が及ぶとはいえない。また、地域住民もその価値を認識していないことも考えられる。

本研究では秋田市新屋地区を対象とし、住民の景観やまち並み、地域資源への意識をイメージ分析により明らかにするものである。すなわち、まち並みや景観を含む地域資源の保存・活用のあり方と地域住民のイメージとの関係性を明らかにすることを目的とした。

2. 新屋地区での意識調査

(1) 調査対象地域の概要

秋田市新屋地区は古くからの伝統的なまち並みが残り、湧水などの地域資源が数多く存在する。また、秋田市が中心となり、そのような地域資源を活用する住民参加型のイベント（景観イベント）を行っている。しかし、景観イベント等の効果は明らかではない。日頃から地域資源に触れる機会の多い地域であり、住民の身近な地域資源への意識を把握することに適した対象地域といえる。

(2) 意識調査の実施と新屋地区の満足度

意識調査票は、400 世帯に調査票を配布し、127 世帯から 182 票を回収した。調査内容は 1)被験者の属性、2)新屋地区の満足度、3)新屋地区の地域資源やイベントへの意識、4)景観への意識、5)SD 法による地域資源のイメージ調査の 5 項目である。

被験者の新屋地区に対する満足度を**図 1** に示す。総合満足度は高いが、他の多くの項目が「どちらともいえない」と回答する被験者の割合の高く、満足度が高いとはいえない。

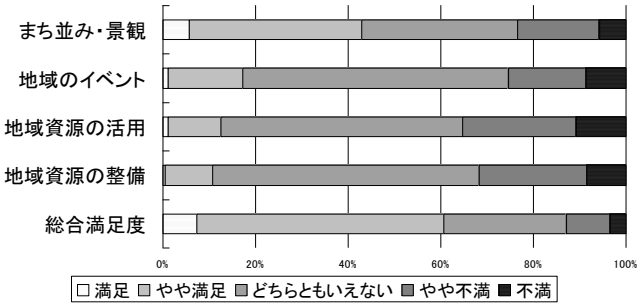

図 1　新屋地区への満足度

3. SD 法による地域資源のイメージ分析

(1) KJ 法によるイメージ抽出

本研究では、言語による尺度を用いた心理実験である SD 法を用い、新屋の景観を言語尺度により定量的に明らかにする。そのためには多くの言語尺度から景観のイメージを分析する必要があり、KJ 法により言語尺度を選定した。結果として、122 のキーワードが得られた。そのキーワードを分類し、24 のキーワードを抽出した。この結果から意識調査項目の形容詞対を選定した。

(2) SD 法によるイメージ評価

イメージ分析の対象は現地調査から 4 ヶ所を選定した。分析対象には比較しうる地域資源を含めている。比較する地域資源は、整備があまりされていない湧水（**図 2**）と整備がある程度されている湧水（**図 3**）である。そして、各地域資源のイメージを把握するため、各言語尺度得点の平均点を求め、被験者の地域資源への興味の度合いで比較した。

図 2　愛宕下お地蔵湧水の里

図 3　薬王院下湧水の里

キーワード：地域資源、景観、意識調査分析、因子分析
連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1 番 1 号　TEL(018)889-2767　FAX(018)889-2975

イメージ比較の結果を**図 4** に示す。景観への興味が高い被験者は整備のされている湧水に対し、「新屋らしさ」や「清潔さ」をイメージしている。景観への興味が低い被験者のイメージが中心に寄り、言語尺度に対する変化が小さい。そのため、景観への興味が高い被験者のデータを用い、分析を行うこととした。

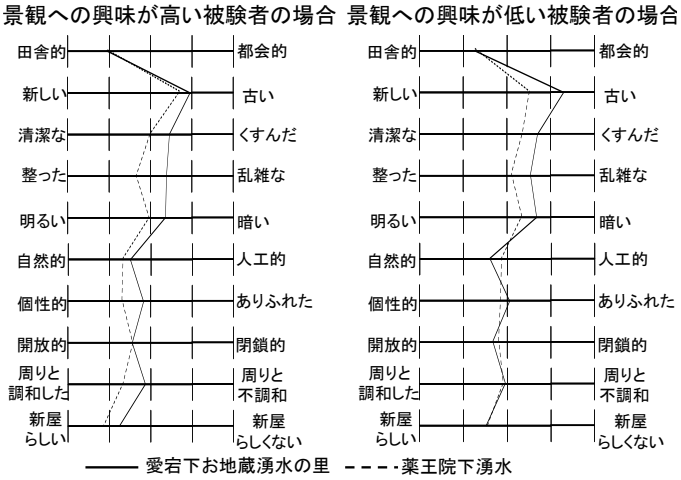

図 4　SD 法によるイメージ平均

(3)イメージに影響を及ぼす因子の把握

景観への興味が高い被験者の各言語尺度項目に因子分析を行った。その際、固有値スクリープロットの累積寄与率が最初に 50%を超える因子までを含めることとした。本研究では、因子は 3 個となり、それぞれの因子にネーミングをした。累積負荷率を求める際の回転はバリマックス回転を行った。ここでは愛宕下お地蔵下の湧水の里の因子（**表 1**）と薬王院下湧水の里の因子（**表 2**）を示す。

表 1　愛宕下お地蔵湧水の里の因子

変数名	因子No. 1	変数名	因子No. 2	変数名	因子No. 3
田舎っぽさ	-0.08	新しさ	-0.18	新しさ	0.02
自然	0.04	清潔感	0.03	明るさ	0.06
新屋らしさ	0.13	整然さ	0.17	自然	0.16
個性	0.15	田舎っぽさ	0.18	田舎っぽさ	0.2
開放感	0.25	周りとの調和	0.21	整然さ	0.22
周りとの調和	0.26	明るさ	0.31	清潔感	0.25
新しさ	0.48	新屋らしさ	0.4	個性	0.32
明るさ	0.71	開放感	0.5	開放感	0.37
清潔感	0.76	自然	0.66	周りとの調和	0.61
整然さ	0.78	個性	0.67	新屋らしさ	0.65
清涼感		豊かさ		地域らしさ	

表 2　薬王院下湧水の里の因子

変数名	因子No. 1	変数名	因子No. 2	変数名	因子No. 3
田舎っぽさ	0.013	新しさ	-0.05	田舎っぽさ	-0.59
自然	0.046	田舎っぽさ	0.15	新屋らしさ	-0.20
個性	0.128	整然さ	0.18	個性	-0.13
新しさ	0.248	清潔感	0.22	自然	-0.08
周りとの調和	0.388	明るさ	0.24	整然さ	-0.07
新屋らしさ	0.393	周りとの調和	0.52	周りとの調和	-0.03
開放感	0.409	新屋らしさ	0.58	開放感	0.01
清潔感	0.785	自然	0.63	明るさ	0.25
明るさ	0.792	個性	0.66	清潔感	0.33
整然さ	0.811	開放感	0.69	新しさ	0.66
清涼感		豊かさ		新鮮さ	

この結果、愛宕下および薬王院ともに第 1 因子は「清潔感」や「整然さ」の因子負荷量が高いことから「清涼感」、第 2 因子は「自然」や「個性」の因子負荷量が高いことから「豊かさ」とネーミングした。これらのことから、二つの湧水のイメージには大きな違いがないものといえる。湧水としてのイメージが強く、整備状況などによりイメージに大きな違いは現れないことがわかる。

(4)イメージが地域資源の評価にもたらす影響

各地域資源に対する評価に影響する要因を明らかにするために、数量化理論Ⅱ類による分析をおこなった。外的基準を、地域資源に対する「残したい」、「好感が持てる」、「まち並み・景観に良い影響がある」の各評価とし、アイテムは各言語尺度項目とした。算出されたレンジをみると、いずれの地域資源も「まち並み・景観」への影響では「新屋らしい」が上位にある（**表 3**）。一方、「残したい」や「好感が持てる」への影響では上位にある項目が異なり、地域資源の評価に影響する要因には違いがある。

表 3　地域資源の評価に対する影響要因とレンジ値

	愛宕下お地蔵湧水			薬王院湧水		
	残したい	好感	まち並み	残したい	好感	まち並み
田舎っぽさ	1.06	1.43	1.68	0.20	0.17	0.07
新しさ	0.50	1.09	0.75	0.45	0.11	0.29
清潔感	0.62	0.42	0.18	0.38	0.77	0.70
整然さ	0.56	0.22	0.33	0.52	0.45	0.21
明るさ	0.22	0.26	0.13	0.54	0.14	0.65
自然	0.77	0.48	0.67	0.33	0.40	0.42
個性	0.83	0.83	0.89	1.52	0.45	0.93
開放感	1.02	0.97	1.06	0.56	0.41	0.22
周りとの調和	0.66	0.88	0.39	1.14	0.90	0.83
新屋らしさ	0.94	0.48	1.13	1.02	0.91	0.92

4.まとめ

満足度分析の結果、新屋地区の総合満足度は比較的高いものの、各項目でみると満足と答えた被験者の割合は低い。特に地域資源の活用や地域資源の整備での満足度が低く、これらの改善が必要と考えられる。

また、因子分析により、整備されている湧水もあまり整備されていない湧水も、類似したイメージで構成されていることがわかった。しかし、数量化理論Ⅱ類による分析から「残したい」や「好感が持てる」に影響を及ぼす項目には差がみられる。

以上のことから、地域資源ではそのイメージを明白にするとともに、類似したイメージの地域資源においても、その整備や活用など、個々の地域資源の活かし方はそれぞれに適した方法を考えていかなければならないといえる。